

口腔修復系診療科 保存修復科

病棟 東病棟 10F

外来 外来診療棟C 5F 連絡先 022-717-8337 (外来)



科長
齋藤 正寛 教授

主な対象疾患

- むし歯
- 根の病気
- 審美修復
- 歯内療法
- 外科的歯内療法

診療内容

近年飛躍的な進歩を遂げた歯を保存する治療技術は、歯を保存する治療の予知性を確実に高め、グローバルスタンダード技術として世界中で行われるようになりました。これらの中には手術用顕微鏡を用いた根の治療（歯内療法：図1上段）、審美的な虫歯治療（審美修復：図1下段）が含まれます。保存修復科ではこれらの技術を導入した診療を行っています。

虫歯治療に関しましては、審美性の高いコンポジットレジンを用いたメタルフリー治療を中心に実施しています。術式としては通法の虫歯の除去、歯面処理を実施した後に、抗う蝕効果の高い金属イオンをリリースするフローレジンで充填、その上に象牙質色、エナメル質色に合わせたコンポジットレジンペーストで積層充填、研磨は手術用顕微鏡にて実施しています。これらの工程をビデオ撮影し、患者さんおよび術者に治療内容のフィードバックを行っています。

歯内療法に関しましては、ラバーダム防湿を用いた治療中に生じる感染予防、手術用顕微鏡を用いた根管の可視化、Ni-Tiファイルによる根管形成、化学的・機械的洗浄を施し、根管充填による封鎖を実践し、治癒の促進と術後の再発を防止します。またこの歯内療法で治癒の期待出来ない病変がある場合には、手術用顕微鏡を用いた外科的歯内療法で対応しております。コーンビームCTを用いて診査診断し、感染源である歯根の先端を切除、逆根管形成、逆根管充填と呼ばれる技術で感染物の除去と封鎖を行い、根尖部歯周組織の治癒を図ります。これらの技術を導入することで、難症例を除き根管治療は2～3回で終了するようになりました。また外科的歯内療法の成績も改善し、年間に約50件を実施するまでの体制を整える事が出来ました。

診療体制

保存修復科では日本歯科保存学会の専門医を中心として診療を行っております。通常の虫歯及び根の治療に加え、東北大学病院に来院する有病者の歯科治療を積極的に受け入れる体制を整えています。周術期の治療に加え、術後の口腔のメンテナンスを行い、歯科を原因とする全身疾患の予防治療を実施しております。また感染しやすい有病者の歯科治療の対策として、虫歯、根の病気、歯周炎の治療に関して、炎症の元となる感染源を徹底的な除去と創傷治癒を誘導する薬剤投与を合わせる治療で対応しております。このような予防と治療を併用することで、全身疾患の予防を目指した歯科治療を実施しています。

得意分野

当科では再生医療を得意分野としております。実際に昨年度より自己血清製剤による再生医療技術を応用した根尖性歯周炎治療の臨床研究を開始しました。自己修復能力の低下している難治性疾患に対して積極的に機能回復を導くため、リグロスのような生物製剤、幹細胞移植治療による歯周炎治療の準備を進めています。この再生医療に関して、再生医療学会と厚生労働省の主導でナショナルコンソーシアムという支援事業も始まり、さらなる普及が期待されています。保存修復科ではこれらの支援事業を利用して再生医療を導入し、全身疾患を有する保存治療の適応拡大と、東北における再生医療の普及化活動も進めていく事を考えております。

このように当科では保存治療の一層の充実と、全身疾患に対応する保存治療を実施するため歯科医師会との連携を深めるとともに、大学病院としての研究・教育にも取り組んでいく所存であります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

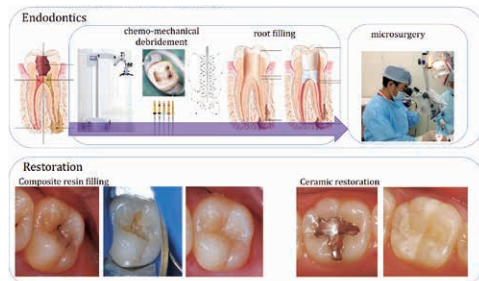


図1 保存科、保存修復科における歯内療法および審美修復の取り組み

ご紹介いただく際の留意事項

- 新患日は、月曜日(偶数日)、水曜日、金曜日です。